カウシカとダルマヴャーダ
シンドゥ・ポーターによる再話

この物語は、2020 年 7 月 4 日土曜日にグルプールニマーを祝う
「テンプルの中にいなさい」のサッツァングで語られました。

『マハーバーラタ』は、精神の旅に出る探究者の物語であふれています。それらの物語は、師の恩恵を通した精神的な目覚めの幅広さと驚異を描いています。

そのような物語の一つが、カウシカという名の、長年にわたって教典を朗唱してきたことから、とても大きなプライドを持つことになったブラーミンの修行者についてのものです。ある日、カウシカがヴェーダをチャンティングした後、彼の頭上に1羽のツルが用を足しました。その敬けんなブラーミンは怒りを爆発させ、それはあまりにも鋭く、その不運なツルを死に至らしめるほどでした。彼の長年の朗唱の力…そう、それはカウシカさえも驚かせました！

自分が達成したことの強さを考えながら、カウシカは近くの家にぶらぶらと行き、托鉢(たくはつ)の器を手に立ちました。家の中で忙しく家族の世話をしていた妻が、ようやく、尊敬すべき来訪者に何を食べたいかを尋ねに出て来た時、怒りの波が彼女に正面からぶつかってきました。「よくもまあ、私を長い間ここに立たせておくことができたものだな？」と、カウシカはまくし立てました。

女性の返答は真理で鳴り響きました。「それで、あなたの怒りのすべての源は何ですか？」と、彼女は尋ねました。「怒りは学識のある者の敵です！　覚えていてください、私はあなたが少し前に不用意に殺したツルとは違います！」 驚きと共に、カウシカはその思いがけない言葉を聞きました。彼女はどのようにしてツルのことを知っていたのでしょうか？

女性は彼の目をじっとのぞき込んで続けました。「あなたが怒りを克服するには、ミティラーに行き、賢人ダルマヴャーダの導きを求めるべきです。彼の達成はあなたに何かを教えてくれるでしょう」

彼女の知恵の道をたどって、尊敬すべきブラーミンはミティラーという栄えた都市に着きました——そして真っすぐ…地元の肉屋の戸口へ向かいました。カウシカは人目を忍んで辺りをさっと見回し、それから振り向いて目の前の戸口を見ました。彼は正しい場所にいるのでしょうか？ここは本当に偉大で尊敬される賢人が住んでいる場所なのでしょうか？

ちょうどその時、肉屋が彼の方へ真っすぐ歩いて来て言いました。「忠告に素直に従って旅して来たのだね？　それと、おまえをここに向かわせてくれた親切な女性の食事はとても良かったかい？」

カウシカはあぜんとしました。頭を下げることしかできませんでした。本当でした！　この男——この肉屋——は、すべてを知っているダルマヴャーダだったのです！

その晩、ダルマヴャーダがカウシカに発した言葉は、彼を永遠に変えました。ダルマヴャーダは話し始めました。「おお、最高のブラーミンよ！　純粋な行いは、すべての善良な人々の特徴である。正直で謙虚な人、忍耐強く高慢ではない人、利他的で腹を立てない人は、真の美徳のある人々である」

グルの教えと恩恵を受け取り、そしてついに真の知識と真の学びが何たるかを理解し、カウシカの心は開かれました。彼はグルであるダルマヴャーダの光を心に抱いて家に戻り、その開かれた心でヴェーダの教典を忠実に教え、他者への奉仕の人生を送りました。

© 2020 SYDA Foundation®. 著作権所有。